ハマ展会報

2016年（平成28年）　5月号
No.012
発行：横浜美術協会

ごあいさつ

第７１回　ハマ展　を終えて

横浜美術協会副会長　日本画部　岩﨑美代子

関内駅前にあった市民ギャラリーの頃を懐かしみながら、鍛えられた足で坂道を上る。
お隣の伊勢山皇大神宮さんの大鳥居を横目でみて・・・御利益がありますように・・と２年目になる　第７１回ハマ展（11/4 ～ 11/15）は、会長、事務局、会員会友の皆様の力の結集で、無事、盛会裏に終わりました。

会長の発案で、陳列終了後に会長・副会長が　全館を廻り各部の展示状況確認をして開場を迎えました。
多数のご来賓のご臨席をいただき粛々と執り行われました授賞式。そのあとの賑やかで和やかな懇親会。恒例の作品講評会など。一般出品者と会員との交流も深めて有意義な時を過ごしました。
来場者からは、中央の公募展と違ってハマ展では様々な作品が見られて面白く、勉強になるという感想も聞かれました。

会期終了後の各部の反省会では、良いご意見もでて、更なるハマ展の発展に繋がると期待したいと思います。
市民ギャラリーが利用者からの要望に応えていただき、初年度よりは心地よい７１回展になりましたが・・・♪狭いながらも楽しい我が家 ^^♪・・・　　少しずつ良い方向に進みたいものです。願わくば、もっと広いスペースで作家がのびのびと作品を展示できるようになればよいのですが・・・。（私見が入って申し訳ございません）

最後になりましたが、横浜市文化観光局はじめご支援を頂きました関係の皆様に、厚く御礼を申し上げます。

「市庁舎跡地に市民ギャラリー移転」に向け要望書を提出

横浜美術協会会長　洋画部　久保田晃二

“2020 年に新市庁舎完成予定で横浜都心が大きく変わろうとしている”との見出しで、新聞に未来予想図の記事が大きい見出しで掲載されておりましたのを、皆さん観ましたか、又跡地利用につきましても“市民、企業が参加する「横濱まちづくりラボ」で議論を続けてきた。市は跡地利用について民間業者に説明会を開いた上、2 月に個別の提案を受ける考えだ。”このような記事が掲載されておりました。

ハマ展としては早急に「要望書」を作成して横浜市文化観光局文化芸術創造都市推進文化振興課と横浜市都市整備局都心再生部都心再生課に二日にわたり４名で出向き、提出してきました。

市民ギャラリーを市庁舎跡地に又は関内駅近くに移転していただきたいと申し入れをして、今後我々の意見を反映できる場を提供して頂き関内駅周辺、市庁舎移転の後の空洞化を防ぐお手伝いできればと考えております。

現在、利便性の悪い市民ギャラリーを、市庁舎跡地又は関内駅近くの元の市民ギャラリー跡地に文化都市横浜にふさわしい市民ギャラリーが出来ることを願って運動をしていきたいと思います。

第７１回ハマ展・報告

会期：11 月４日（水）～11 月 15 日（日）横浜市民ギャラリー（旧いせやま会館）

〇搬入受付　　11：00 ～ 17：30
10 月 24 日（土）,25 日（日）2 日間にわたり行われた。ただし写真部は既に 9 月 13 日（日）に一次搬入を行っている。

〇各部の審査・審査方法
横浜美術協会では会員全員が審査に当たる。入落の決定は緊張の連続である。
各部の審査基準概略は次のようになっている。

洋画部：10 月 27 日、28 日の二日間にわたり、3 審まで審査が行われ、その後賞候補の中から賞を決定。20 人の入賞作品を含む 186 人 ,187 点の作品が入選した。作品裏面のシールは選考の段階で貼り付けられたもので、赤はその段階での通過を、黄色は保留を、青は選外を表している。

日本画部：10 月 28 日審査。　作品一点ずつを出席会員全員で〇、×、保留の意思を表示し、〇、× の数で入選、選外が選ばれる。〇が過半数超えている作品を筆頭に〇の数が多い作品を選びその中から投票にて賞を決定する。

彫刻立体部：10 月 28 日審査。. 審査で検討された内容は、彫刻立体にふさわしい形態であるものを基準とし、工芸的要素の強いもの、展示に耐えられない不安定なものは選外とした。

写真部：9 月 21 日一次審査で入落決定し、10 月 27 日に入選作品の中から賞を決定する。

〇展示作業　　11 月 3 日（火）
部屋を決定の後、各部屋の担当者全員でそれぞれの作品が引き立つように、作品を何度も何度も並べ替えてはもっといい並べ方はないかと試行錯誤の末決定する。一日かけて展示を行う。

作品展示作業風景

第７１回ハマ展搬入・展示数明細

	洋画部	日本画部	彫刻立体部	写真部	合計
一般搬入	249 名（393 点）	99 名（106 点）	20 名（23 点）	117 名（343 点）	485 名（865 点）
一般入選	186 名（187 点）	91 名（ 91 点）	16 名（18 点）	100 名（100 点）	393 名（396 点）
一般選外	63 名（206 点）	8 名（ 15 点）	4 名（ 5 点）	17 名（243 点）	92 名（469 点）
会員	95 名（ 95 点）	40 名（ 40 点）	26 名（26 点）	54 名（ 54 点）	215 名（215 点）
会友				9 名（ 9 点）	9 名（ 9 点）
展示	281 名（282 点）	131 名（131 点）	42 名（44 点）	163 名（163 点）	617 名（620 点）

ハマ展開催　　11 月 4 日(水)～11 月 15 日(日)
第 71 回ハマ展では 620 点が展示され、延べ約 26000 人（各部合計）の入館者でにぎわった。関内の市民ギャラリー時代に比べ作品も小さく、点数も減らさざるを得ず、また交通の便も悪くなった中、多数の出品者、入館者に感謝している

授賞式・懇親会　　11 月 6 日（金）
　授賞式　17：00 ～　　懇親会　18：30 ～
メルパルク横浜で授賞式。一般出品者 53 人会員会友 14 人が受賞した。続いて懇親会が開かれ、220 人ほどの出席者が交流を深め、楽しんだ。

講評会　　11 月 8 日(日)　13:00～15:00
写真部を除く洋画部･日本画部･彫刻立体部で開催された。雨で出席者が激減するのではという関係者の心配をよそに、118 人の出品者が熱心に聞き、大勢の受講者が取り巻いた。活気にあふれる 2 時間だった。

作品講評会

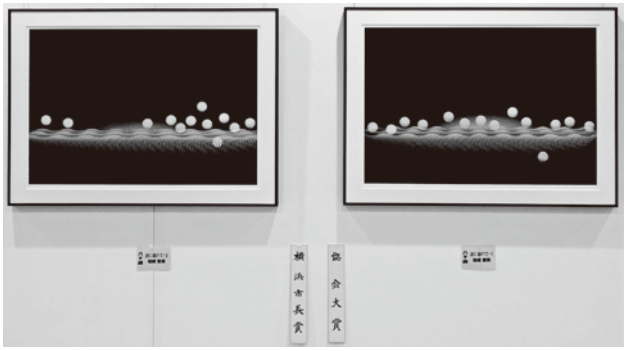
新しい賞
今年新たにD-ＹＣＡＰ賞が NPO 法人 D-YCAP からの後援により設けられた。これは、四部門の一般出品者の中で将来性のある優秀な若手作家 1 名に賞状及び奨学金を授与される賞で、今年は、20 歳代の彫刻立体部　平野あゆみさんに授与された。

受賞者からのメッセージ

今回は、５３名が受賞した。各部の受賞の最高賞として協会賞、その協会賞の中から１点協会大賞が選びだされる。第 71 回展　４人のメッセージです。
なお、本年は協会大賞が設定された第２７回展 (1971 年　昭和 46 年) 以来の受賞者による展覧会「歴代協会大賞受賞者展」が。6/6(月) ～ 6/18(土)　仲通りギャラリー (12 ページ参照) が開催される。ご高覧お待ちしております。

協会大賞

洋画部　稲継 豊毅



この度は、協会大賞という名誉有る賞を頂きまして、驚きと共に大変光栄に思っております。一昨年よりデジタルで無ければ出来ないと思われる技法を模索し始め、ドットの連続による干渉やモワレを作り、波をテーマとした表現にたどり着きました。技法を模索し始めた頃は頭の中で思い描いている形やスケッチとはほど遠く、試行錯誤を重ねて昨年あたりからやっと形となってまいりました。今回の作品も何時ものように迷い悩みながらの作品作りでしたが、イメージ通りに描けたと思っています。

今回の受賞はとても大きな励みとなりました。これからも迷い悩む事を楽しみ変えて作品を作り続けて行きたいと思っておりますので、宜しくお願い致します。

協会賞

日本画部　油野由美子

私は絵描きの家に生まれました。父は油絵でしたが、私は日本画を描いています。絵を描くことは、生活と一体化していました。

多くの公募展の出品経験はありますが、これまではひたすら流れのままに描き暮らしていました。

この度、協会賞をいただき緊張しますが、これから新起一転、やろうという気持ちが沸いてきます。

以前は叢･森、現在は蓮と、群生した生物に魅力を感じます。その奥に何か、不思議な得体のしれない物が潜んでいるのではないかと思うと、恐くて、引き付けられてしまうのです。

浪人時代に指導していただいた先生からよく言われた言葉をこの頃ふっと思い出します。

「うまい絵ではなく、いい絵を描け。」
そのいい絵を目差して、描いていきたいと思います。ありがとうございました。

協会賞　彫刻立体部　鞍谷 一樹

この度は協会賞を頂けて、嬉しく思います。日頃より、制作をする上で「祈り」というものをテーマとしています。昨今の不安定な世の中において芸術というものが如何に無力であるかということを感じつつも、それでも何かを伝えられればという思いから、今回の作品が生まれました。京都、六波羅蜜寺に安置されている空也上人立像をオマージュし、今私が感じる南無阿弥陀仏という意味を薬莢に込めました。展示を見てくださった方が何かを感じてくれれば幸いです。

協会賞　写真部　渡辺 文恵

「まさかの受賞」

今回初めての応募で栄えある賞を頂き、信じ難い気持ちと感謝で一杯でございます。

この写真はサハラ砂漠、客をラクダに乗せ少年が綱を引くといういわば観光地でした。怖々私も乗り、歩くうちに大きな太陽が沈み始め、その上に素晴らしい雲！
慌てて降り腹這いに近い状態でシャッターを切った中の一枚です。
シャッターチャンスに恵まれました。

未来永劫この平和な風景が続いて欲しいとの願いから、この題名を付けました。

写真を始めましてから季節の移ろいに敏感になり、カメラを持てばいつのまにか数千歩を歩いており健康的、いい趣味を持てたと自画自賛しております。

これからも、ご指導頂きながらカメラと接し続けたいと存じます。

2016 年（平成 28 年）第 72 回ハマ展

搬入	写真部：四つ切搬入　9 月 11 日 (日)　10：00 ～ 17：30　楽 5 階 上記入選者　9 月 23 日 (日)　11：00 ～ 17：30　横浜市民ギャラリー 洋画部・日本画部・彫刻立体部：10 月 22 日（土）23 日 (日)　11：00 ～ 17：30 横浜市民ギャラリー
会期	11 月 2 日 (水) ～ 11 月 14 日 (月)
会場	横浜市民ギャラリー
作品講評会	11 月 6 日 (日)　13：00 ～ 15：00　洋画部・日本画部・彫刻立体部
授賞式・懇親会	11 月 11 日 (金)　17：00 ～ 20：00　横浜メルパルク
賞	協会大賞 (市長賞) ３０万円１点　協会賞１０万円３点他多数

詳しくは「第７２回ハマ展開催要項及公募規約」をご覧ください
ハマ展のホームページに過去の受賞作品が載っています

横浜美術協会の歩み　1

美術協会は、1919 年（大正 8 年）に誕生し、まもなく 100 年になります。
震災、戦争を乗り越え、ギャラリーなどまともにない時代に審査をし、展覧会を開いてきた先人たちの足跡をたどってみたいと思います。3 回にわたり、連載を予定しています。

第一期　横浜美術展　　横浜美術協会の誕生

大正 8 年～大正 12 年（1919 ～ 1923）

大正 8 年 11 月　横浜市は、手工芸輸出作品の向上を図るため工芸図案コンクールを計画するが、先ず純正美術の展覧会を開催し、美術を応用する手工芸の衣装図案に対する美意識を少しでも高めた方がいいと、急遽横浜在住の洋画家に呼びかけ横浜美術協会を設立、12 月には協会の協力を得て洋画だけによる横浜美術展（市主催）を開催、翌年大正 9 年 2 月には工芸図案展を開催した。公募による工芸図案展には約 650 点の応募があり、意匠図案に新味を打ち出すことに大きな効果をあげた。

市はさらに工芸図案の美意識向上のため、日本画部門を加えて 5 月に第 2 回横浜美術展を、10 月に第 2 回工芸図案展を開催している。会場は開港記念会館の大会堂、食堂、会議室をあてての展覧会であった。

第 3 回展は大正 10 年 5 月に開かれ、搬入点数　洋画 260 点（入選 51 点）日本画 96 点（入選 41 点）、入場者数は 5 日間で

14,093 人と報告されているから想像以上の盛況だった。内容は、洋画は風景画、静物画が多く、日本画は美人画が多かった。アマチュアの出品も多く、質的には必ずしも全般的に高いとはいえない。

大正 11 年の第 4 回展は、川村信雄の提案により厳選主義をとり、さらに翌 12 年の第 5 回展は、それまでの審査員は展覧会運営事務にのみ当たり、新たに審査員として、本牧に住む日本美術院の下村観山、東京から文展，帝展審査員の岡田三郎助といった大物作家を迎えて鑑別を厳しくしている。

このように、市展として市民に親しまれるようになり、内容も充実し、若い作家が育ち始めたのであったが、第 5 回展の開かれたその年、関東大震災が起こり、惜しくも中断せざるを得ないことになる。なお、この第一期の市展は、市の商工課が担当であった。

第二期　横浜美術展
大正 13 年～昭和 5 年（1924 ～ 1930）

関東大震災は、横浜を一瞬にして壊滅させた。被害を受けた 1 府 6 県のなかで、横浜はもっともひどい惨害にあったという。

大正 13（1924）年会員の川村信雄は、横浜貿易新報社（現神奈川新聞社）社長三宅盤から、焦土のすさんだ人心を落ち着けるため、文化面の復活の手始めに美術展を開きたいから準備をしろと日本画の牛田雞村とともに相談を受けている。この横浜美術展覧会は大正 14（1925）年 6 月、震災のため桜木町駅前にあった仮市庁舎跡を会場にして開催された、洋画の審査員に石井柏亭、安井曽太郎、日本画に前田青邨、川端龍子を迎えての鑑別であった。応募数 325 点（入選 133 点）日本画 85 点（入選 50 点）であった。　第 1 回展は、「焼野原以外に見るべきものがなかったので市民が殺到、大変な好評を博した」とある。

第 2 回展は大正 15 年に開催する予定であったが、会場のメドがつかず、翌年昭和 2（1927）年 12 月横浜貿易新報社新社屋行動で開催している。昭和 3 年第 3 回展も同社屋で開催。第 2、第 3 回展は特に中央画壇から審査員を呼ばず、地方委員だけの活躍で運営している。

昭和 4 年の第 4 回展は、横浜貿易新報社社屋では会場が狭かったのであろうか、桜木町駅前の中央授産所（後の興産館、戦後の市民ギャラリー）を会場とし、審査員も再び中央画壇から招いての展覧会となっている。応募数日本画 91 点（入選 46 点）洋画 672 点（入選 163 点）、かなり熱の入った横浜美術展であった。

関東大震災以降の第二期では、後に活躍を始めるアマチュアではない人達の名前が多くみられるようになっている。

昭和 5（1930）年第 5 回展は、再び横浜貿易新報社行動で開催されたが、この時には公募せず。前回入選者の無鑑査出品者や受賞者のみに限り、前期に洋画、後期に日本画と二回に分けて行い、理由はよくわからないがこの五回展をもって第二期ともいえる横浜美術展は終わってしまう。

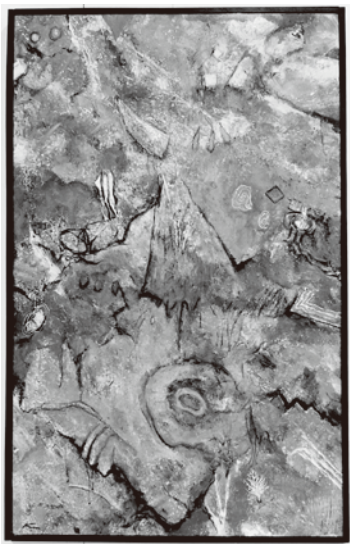
（「横浜美術風土記」横浜市教育委員会　1982 年 3 月発行　横浜美術風土記編集委員会編集　より抜粋）

（上）開港記念会館；横浜開港 50 周年を記念して、市民の寄付金により大正 6 年に創建された横浜市の公会堂。大阪の中の島公会堂とともに大正期の 2 大公会堂建築とされる。
（下）横浜貿易新報社；現神奈川新聞社。新市庁舎建築場所に当時社屋があったと思われる。

自作を語る

それぞれがそれぞれの思いで制作し、鑑賞する者は各自各様に感じ、心に刻みつけていく。作者のコンセプトの紹介です。

洋画部会員　宮越　薫



　ふと思う。どうして生きながらえて来たのだろうか。振り向けば、曲がりくねった道も只の一本道。多くの物を犠牲にして歩んで来た道。
職人のように確たるコンセプトも無く、かたちの中に何かを探し続けて来た道のり。
　『同じでないという事、その事が限りなく尊い』と言ったジャコメティの言葉少ない、寡黙な眼差しは私には無い。むしろ饒舌な無意識とさえ言える中に、隠された何かを探すことと言う曖昧な、そして限りなく不透明な世界を求め続けて来たのではあるが・・・
　今と向き合い自由な表現をと言う願いは、円熟も知らず求めて来たものは、描くたびに失われて行ったのかもしれない。私の中にはそんな古典的な観念もはびこっているのだろう。
　作家の江藤淳さんがある人を評して『無意識過剰』と言う言葉を使っていたが、正に私、とそんな揶揄する言葉に妙に納得している愚かな自分。
　アートする若者達の息吹を羨んで、私も少年のころの憧れに似た制作意欲、偉そうな言い方だが描く事の秘儀とさえ言える自分だけの世界を、見つめ直して行くしかない。
　アートしよう！アートしよう！つまらぬことをいいながら、悩みながら、描き創り続ける、そんな生き様も，死に様も素晴らしと考えているこの頃です。

洋画部会員　真木　欣一

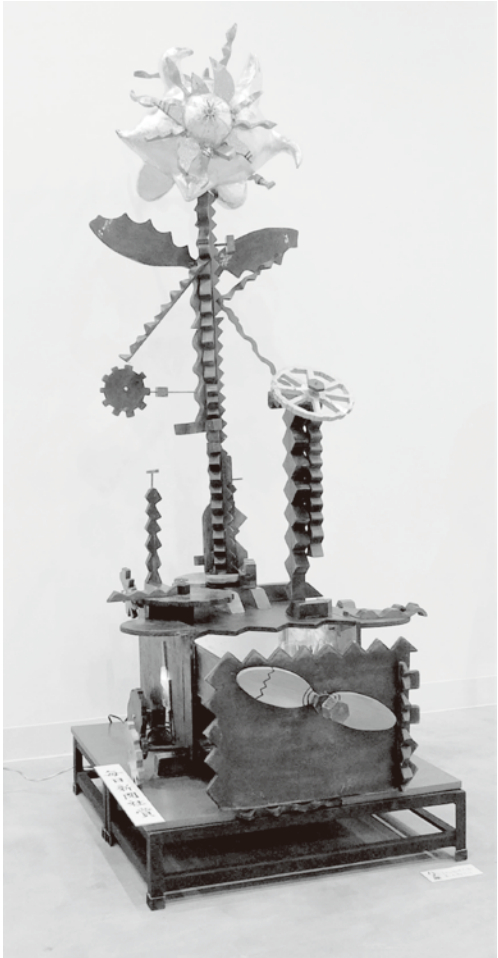
「自作を語る」と言うことで、71 回ハマ展出展の作品について述べます。
　これは、最近手がけている「タイムスリップ」シリーズの作品で、今回は竹を編んで作った籠を題材に使ったものです。
　江戸時代の古地図と現代風景とを描いた　２種類の帯状の竹片を、それぞれ横糸・縦糸にして竹籠を編んだイメージを描いてあり、これにより過去と現在とが相互に絡み合い影響しあいながら混然一体となっている様を表現しています。
　私は、デジタルプリントの版画を制作していますが、版画で重要な質感を出すため、この作品では帯状の竹の陰影や立体感は木版を使って出し、全体はデジタルプリントで仕上げたミックストメデイアの作品です。更に、和紙（デジタルプリントにも適した阿波紙) を使い、また木版絵具には日本画用水干を使って、デジタルプリントだけでは出せない柔らかい質感を出すよう心がけました。
　尚、版画は海外にも郵便物として容易に送れるため国際交流が盛んで、デジタルプリントの多い海外の公募展にも積極的に参加しています。インターネットホームページもご覧いただければ幸いです。(「真木欣一デジタルプリント版画の世界」で検索可能)
今回の 71 回ハマ展では、稲継氏のデジタルプリントの版画作品が協会大賞に選ばれましたが、横浜に新しい波が押し寄せて来たことを感じました。更に研鑽を積み、自分なりの作風を確立するよう努める所存であります。

「最近　思うこと」

日本画部会員　岩谷 勢子

　或る大きな児童画展の、横浜市青葉区内の小学生の作品審査を担当して今年で四年目になります。今回は 400 点程の作品を慎重にしかし楽しく審査しました。子供達は夢中で、集中して描いていて、とにかく面白い。
彼等の観察力に感心することも度々です。
　そして私自身も美術団体に所属し、審査を受ける立場として大いに反省させられます。
　若い頃、絵描きになりたいと夢見ました。自宅前に「先生、私共へもぜひお作品を！！」と画商が手土産持参で列を成しているような・・・・そんな無謀な夢はすぐに潰えたけれど、絵は続けて来ました。いつか代表作と言える作品を描きたい、それを唯一の目的として。そして 30 年近く経ち、目的は評価を得ること、入選することに変わっていました。　それも間違ってはいない、誰でも良い評価は得たいものだから、でも認めたくない変化でした。
　それがこの数年、子供達の楽しい絵に接する機会を得て、絵は何の為に描くのかと再び自問するようになりました。現在、絵に関係することを仕事としているけれど純粋に画家とは言えない私は何の為に描くのか？結局のところ、社会との繋がりの中に生き、自分の生きる意味を感じられたら・・・アァアー！？
　子供達の絵はそんなこと、ぜーんぶ、ふっ飛ばしてくれました。
もっと楽しく、やりたい事やろう！！
もっとキラキラ、力強く輝こう！！
正直、良い評価は得たいけれど、それは後からついて来る。向上心を持ちながらでも楽しく描く事はできるはず・・・
　これから私の絵はどう変わるのか。私はどう変われるのか。人生後半にずずっと踏み込んだ現在、まだ変われる予感に胸を踊らせています。

彫刻立体部会員　遠山 紗記子



　彫刻立体部に所属してから約 5 年になる。まだ続いているのは自由に制作できるベースがここにあるから。と思っている。
　グラフィック志望だったので、古い友人から何故立体？と聞かれるが、私の中では立体も平面も何ら変わりない同一線上で右脳と左脳が存在するのと同じようなもの。作品制作の過程で平面の構図が浮かびそれを立体にする事もあれば、立体を平面にスライドする場合もあって、その都度脳みそのなかはシーソー状態になる。その感覚がとっても好き。コンセプトは（いかに見る人を驚かすかっ！）それだけ。。。。
　以前ハマ展展示で受け付けをしていた時、一般のお客さんは平面はじっくり見ていくが彫刻立体はスルーする人が多いことに気付いた。そこで赤レンガ倉庫展示のとき、私は仕掛けた。その時の作品は静脈を意味したセルリアンブルーの立体。その作品の中央にビーカーを接地した後、ビーカーの中に青い液体を入れチューブで空気を送る。ブクブクし始めるとギャラリーが集まってきた。思惑通り！
　ギャラリーがスマホを構える中、さらにサプライズ！　その青いブクブクの液体の中にドライアイス投入！　～モクモクとドライアイスの煙が～
　20 人近くのギャラリーが写メで撮影・・・　　あーー面白い！　　いかにサプライズ。いかに変な物。いかに変化する。それを貪欲に追い求める事。
　まだまだだっ！　あたり前すぎる自分がいる。またいるのだ。それがつまらなくて作品を制作し続ける。その繰り返しです。

「葉っぱに想う」　　日本画部会員　霜鳥 忍

「桜・春秋」 秋、色づいた桜の葉に春の満開の桜の花を想う。トシのせいだろうか。

咲いて良し散って良し、花のあとの青葉、秋の色づく葉も。人もまた若い時の瑞々しさ、壮年の充実、老いの円熟とそれぞれの美しさ味わいが在ると思うのだが・・・

小倉遊亀が師の安田靫（ゆき）彦から受けた言葉に「一枚の葉っぱが手に入ったら、宇宙全体、手に入ります」とある。こちら凡夫の哀しさ、葉を一枚はおろか二枚、三枚描いても手に入らない。枝ごと描いてもまだまだ。とうとう花まで描いた。それでも見えてこない宇宙全体。

また、ある人が言う「おめえナ、花はある程度はナ、誰でも描けるんだよ。葉っぱがなア、葉が描けりゃ一人前ヨ」グサリと刺さる。自分の頭の中で描くものなどタカが知れている。写生 ― 自分の目で見て感じ取って、手で描いて心で確認する。それしか無いのだろう。美しいものは美しく。それは表層的なものではなく、内に在るというか、衰、枯、異形なものからも美しさを汲み取れるようになりたい・・・ハッパ六十四か。もう六十八なのになア。

写真部会員　今関 猛

この度は３会員賞の毎日新聞社賞を頂きまして有難うございました。皆様のお蔭と思っております。作品の撮影時期は１１月の初旬です。前夜の１１時頃家を出て、日光戦場ヶ原の赤沼駐車場に到着、１時間ぐらい仮眠をとり小田代ヶ原に向かいます。車道ですが真っ暗闇で途中には熊に注意の看板もあり気持ちの悪い道を小一時間歩きます。明るくなればバスも（低公害）走りますが写真の場合にはバスを待っていると太陽が昇ってしまいますので皆苦労して歩きます。現地に付き、撮影ポイントを選び三脚にカメラを乗せて日の出を待ちます。やがてうっすらと湿原や木々が見えてきます。シャッターを切ると全体がブルーに写ります。この時間帯の写真も魅力が有り好きな時間帯です。やがて男体山の後ろから一条の光がさし木々を湿原を黄金色に染めていきます。暗闇の徒歩、眠い、寒い、重たい一切を忘れ夢中になってシャッターを切ること３０分、饗宴は終わりです。期待に胸ふくらませ帰路につきます。至福の一時、皆様も是非一度行かれることをお勧めします。

写真部会員　雨宮 秀幸

出品作品について所感を書くように担当役員から依頼があった。さて、困った。私の文書表現能力で第三者に思いや考えが伝わらないと最初は尻込みをした。しかしハマ展に一度も文書を投稿したことが無く、最初で最後と思い書くことにした。

私のハマ展公募時代は（５０年前）白黒フィルムで現像液や定着液を秤で計って調合し硬調、軟調にコントロールすることに苦心をした。カメラは露出計や距離計なども不備で、練習や勘で操作し、フィルムを現像するまで仕上がりが分らない時代を過ごしてきた。今はスマホや携帯電話でも確実に写る時代です。作品をどのように生みだすかが作家として問われるようになりました。

写真は被写体を借りて考えをどう伝えるか、大きく分けて二つの基本があると思っています。被写体を借りて感情や想い、思考、創造などに意味変換する方法と、被写体を忠実にコピーしより現実に近い状態で伝える方法があると考えます。私は純粋な主観も客観もないと思いますが、この度の受賞作品「大日影トンネル」は後者の客観的表現に軸足を置いた方法で、山梨県勝沼に至る古いトンネルの存在と状況を伝えたく作画いたしました。

横浜美術協会主催 行事

日本画部・人物写生会以外は参加費無料

洋画部・スケッチ会

異国情緒に溢れる赤レンガ倉庫の周辺をスケッチして
楽しみましょう！最後に講評もあります
日時：９月１０日（土）10 時～ 15 時
・雨天の場合は９月１１日（日）同時刻
場所：横浜赤レンガ倉庫周辺
　・JR・市営地下鉄「桜木町駅」または「関内駅」
　　より徒歩 15 分
　・みなとみらい線「馬車道駅」または「日本大通り駅」
　　より徒歩６分
集合：10 時　横浜赤レンガ倉庫　1、2 号館間の広場
問合せ先：佐々木 美直子
　　水村 繁

絵　水村 繁

洋画部・作品研修会

初めての方にも親切に分かり易く、作画のポイントなどをアドバイス
します油彩・水彩・アクリル画など大きさも自由（丸めて持参可）
ですのでぜひご参加をお願いします
日時：9 月 18 日（日）13 時 40 分～ 16 時 30 分　（受付 13 時 20 分）
　　* 受け付け順に講評を行います
会場：横浜市市従会館　３階　第 1,2 会議室
　　横浜市民ギャラリーとなり
　　・JR・市営地下鉄「桜木町駅」より徒歩１０分
　　・京急「日ノ出町駅」より徒歩８分
　　* なお駐車場はありません
問合せ先：森田 克良
　　白井 洋子

絵　森田 克良

日本画部・野外写生会

鳥たちの歌声、花々の香り、秋の自然をご一緒にどうぞ！
日時：10 月 12 日（水）　10 時～ 15 時
場所：横浜市こども植物園・児童遊園地
　　・雨天の場合は 10 月 14 日（金）同時刻
集合場所：植物園入口　（入場料無料）　☎045-741-1015
　　･京急「井土ヶ谷駅」JR・地下鉄「関内駅」より
　　市営バス 79「平和台」行きにて「児童遊園地前」下車すぐ
　　･「横浜駅」東口「保土ヶ谷駅」東口より市営バス、神奈中バス
　　ともに「児童遊園地入口」下車３分
　　（横浜駅西口より市営バス 53 の場合は「児童遊園地前」下車)
　　*「東戸塚駅」「戸塚駅」からもバス便があります。
　　ネット、電話等でご確認ください
持ち物：スケッチブック・絵具一式、お弁当
問合せ先：上継 友美子
　　亘　征子

絵　上継 友美子

日本画部・人物写生会

民族衣装による人物着彩デッサン！
日時：12 月 5 日（日）予定
<ハマ展のとき日本画部受付でお聞きください>
13 時～ 16 時　(受付 12 時 30 分)
会場：　平和記念レストハウス　第 2 室
　　横浜文化体育館となり
JR・地下鉄「関内駅」徒歩 5 分
　　地下鉄「伊勢崎長者町駅」徒歩 4 分
受講料：　500 円　(モデル代含む)
持ち物：人物デッサン着彩用具 (鉛筆、色鉛筆、水彩絵の具、
　　筆、スケッチブック等) イーゼルは不可
申し込み・問合せ先：品川　成明
　　岩﨑　美代子

絵　品川 成明

彫刻立体部・裸婦クロッキー会

人体の動きをいろいろな角度からクロッキーして
いきます事前の申し込みの必要はありませんが、
未成年の方はお問合せください
日時：　9 月 4 日 (日)　　14 時 30 分～ 17 時
会場：横浜市民ギャラリー４階アトリエ
問合せ先　　倉賀野　廣
　　竹村　真理子

絵　品川 成明

写真部・撮影会

どなたでも OK です‥ふるって参加ください
日時：７月１０日 (日)　　１６時～１８時
場所：大桟橋付近
集合：１６時　　「桜木町駅」前
問合せ先：　藤代　昌司
　　本田　勝洪

写真部・研修会

会員のベテラン講師がアドバイスします
日時：8 月 11 日（木）14 時～ 16 時
会場：横浜市技能文化会館　２階大ホール
持ち物：A4‥４つ切りに伸ばした写真　５枚
問合せ先：藤代 昌司
　　本田 勝洪

絵　水村 繁

２０１６年　ハマ展関連展覧会のお知らせ

横浜美術協会主催の展覧会

◎第 12 回ハマ展会員会友展

横浜美術協会会員会友の作品を展示。洋画部・日本画部幅 2m まで、彫刻立体部 1m× 1 m×2m まで、写真部（パネル、額を含む）幅 1 m 以内の作品

7 月 5 日（火）～ 7 月 11 日（月）　10:00 ～ 17：30（初日 13:00 から　最終日 16:00 まで）

横浜市民ギャラリー

◎ハマ展歴代協会大賞受賞者展

過去の協会大賞（市長賞）受賞者 25 名の作品を展示

前期：6 月 6 日（月）～ 6 月 11 日（土）洋画・彫刻立体

後期：6 月 13 日（月）～ 6 月 18 日（土）日本画・写真

11：00～18：00（最終日は 17：00 まで）

仲通りギャラリー（関内駅　徒歩 5 分）　☎045-211-1020

◎第 72 回ハマ展受賞者展

一般出品者、会員会友の受賞者の作品を展示

2017 年春頃の予定(第 71 回ハマ展受賞者展は修了しました)

◎日本画部会員の小品展

第 13 回響韻会日本画展

日本画部会員による小品展　　ハマ展開催期間中の展覧会

11 月 7 日（月）～ 11 月 13 日（日）　　11：00 ～ 18：00

（初日 13：00 オープン　最終日 16：00 まで）

画廊楽Ⅰ　（関内駅　徒歩 3 分）　　☎045-681-7255

◎画廊賞による展覧会

画廊楽賞展

受賞者：遠藤照美（洋）前川京子（日）籾山愛子（彫）の三人展

4 月 4 日（月）～ 4 月 10 日（日）

画廊楽Ⅱ(関内駅　徒歩 3 分)　　☎045-681-7255

鶴見画廊賞展

受賞者：山田光子（洋）立花佳子（日）の二人展

7 月 6 日（水）～ 7 月 11 日（月）　11:00 ～ 18:00　(最終日 17：00 まで)

鶴見画廊（鶴見駅　徒歩 3 分）　　☎045-584-7208

仲通りギャラリー賞展

洋画部会員　川崎常子の個展

6 月 20（月）～ 6 月 25 日（土）　11：00 ～ 18：00　(最終日 17：00 まで)

仲通りギャラリー（関内駅　徒歩 5 分）　☎ 045-211-1020

発行人　　横浜美術協会

会長　久保田晃二

〒231-0028 横浜市中区翁町 1-3-15
小原ビル 5F　☎: 045-681-5158

編集委員
村杉哲子　佐々木多瑛子
下倉節子　本田勝洪　工藤眞紀子

HP でも詳しい情報を
お知らせしています。
http://hamaten.jp/

訃報

日本画部　堀美栄さん

1982 年初入選 2003 年会員推挙 院展、春の院展にも数度出品

2015 年 9 月 22 日永眠　78 歳

写真部　河崎英男さん

1964 年会員推挙　1996 年～ 1997 年横浜美術協会会長

2015 年 12 月 9 日永眠　84 歳